

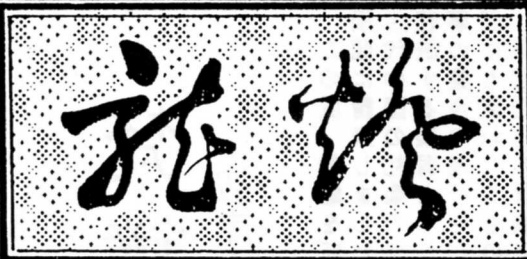
第35号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈龜山 九島 禪院
 ☎550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住職 奥田 啓知(智證)

大阪にオリンピックを！

九条に中華街を！

阪神西大阪線延伸決定！



成人式を考える (二)

— 宗教教育いまこそ必要！ —

今年ほど荒れに荒れた成人式はありませんでした。小紙でも二年前、仙台市の成人式での携帯電話や私語に激怒した早大教授の事件をとりあげましたが、今年も各地で行われた成人式で、一部若者たちによる傍若無人な振る舞いが次々に報道され論議を呼びました。

高知県では、祝辞を述べる知事が、二階席の騒ぐ新成人に一人、高松市では、最前列の新成人が一升瓶を回し飲みをして騒いだあげく、挨拶する市長にクラッカー(爆薬)を鳴らすなどして式を妨害しました。喧嘩や暴力沙汰は各地で起きました。

高松市長は、式の進行を妨害したとして威力業務妨害容疑で高松北署に告訴。同署は出頭してきた新成人容疑者を逮捕しました。また、文部科学省も都道府県教育委員会を通じ、全国の成人式の実施状況を調査し、来年度以降の成人式の運営に役立つといます。

彼らが騒いだのは、成人式を格別に批判してのことではなく

はじめから式を混乱させ、妨害することが目的で、人前で目立ちたいとの子供ばい考えで面白がってやったに過ぎません。町の暴走族と同じなのです。

キリスト教では、基本的に子どもは未完成なものとして、いわば動物の段階にあり、人間にまで高めるためには、懲戒する教育が必要とされています。旧約聖書「箴言」第一三章には、「むちを加えない者はその子を憎むのである、子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる」とあります。

一方仏教では、すべての人間——大人も子供も含めて——を衆生悉有仏性と言っています。一切に、すべての生きものに仏(ほとけ)となる可能性が宿っている。子どものうちにあるほとけの可能性を高め育て、本来有している仏性を覆っている煩惱を取り除くのが、仏教で考える教育なのです。

いづれも、考え方の根本は違っても、「わがまま勝手」「好

き放題」を許さず、宗教教育の必要を述べています。

小中学校での「学級崩壊」は大学の講義にも及んでいるようで、一部の「お調子者」や「鼻つまみ者」が騒ぐだけでなく、あおったり、はやし立てる者が少数派ではないそうです。友人が羽目を外し、乱暴を振るって止めようともせず、薄ら笑いを浮かべて見守るような若者気質は、学校でのいじめとも無縁ではありません。

「わがまま」を「自由や権利」として教えてきた戦後教育のつげが回ってきたといえるのです。満二十歳になれば成人と国が認める以上、無法の暴力行為をはたらけば、社会的責任の重みを十分に自覚し反省させるべきであり、宗教教育の大切さにも思いをよせるべきだと考えます。「社会崩壊」するまえに



なごやかな成人式はいずこへ？

梵鐘新鑄

彼岸会に入魂法要厳修

この度、梵鐘を新鑄し山門
樓閣に請来しました。梵鐘は
古代中国の礼楽の楽器が仏を
莊嚴する楽器となり、寺院行
事の集合や進行を知らせる合
図にも使われるものです。

平家物語の冒頭に「祇園精
舎の鐘の声諸行無常の響きあ
り」という有名な文言があり
ますが、梵鐘の響きがそのま
ま仏の説法を意味し、仏さま
の教え、お釈迦さまの声なの
です。禅寺では雲水が一打ご
とに「五体投地」の礼拝をく
り返しながら、心をこめて撞
いています。

昔、中国の傳（ふ）大士と
いう僧侶が、生前経文を常に
誦誦していたのに、冥土に行
って一句も思い出せず、閻魔
大王の裁きによって、まさに
地獄に落ちようとした時、静
かに響いてくる鐘の音を聞い
てたちまち仏法の奥義を思い
出し、それを述べて許されて
よみがえったと言われているま
す。

除夜の鐘を撞くのは、その
響きを聞きながら、行く年を
反省し、わが煩惱を自覚し、
その一つ一つを洗い流すため
なのです。

本年平成辛巳年は、震災の
年に亡くなった弊師弘忠和尚
の七回忌にあたり、師匠の慈
恩に酬いる為、今般の運びと
なりました。

口径一尺七寸、高さ二尺九
寸で重量約四十三貫。京都の
鑄匠岩澤徹誠の作です。口径
二尺二寸以上のもを梵鐘又
は釣鐘というそうで、正確に
は半鐘の大きなものですが、
戦争で焼失した旧山門の樓閣
にも釣り鐘がなかったそうで
摂津名所圖絵の当院境内図を
見ても、鐘樓が載っていない
ところから、三百四十年の寺
曆上、初めてのことと言いま
す。

鐘銘は、序文を小柄が作り、
漢詩を森崎蘭外先生に、揮毫
を高園柏邨先生に依頼しまし
ます。

た。
鐘 銘

靈龜山九島院者黃檗開創功
勞而後水尾院太上法皇御嗣
法師龍溪禪師開山也 創草以
來參百幾十年只恨未有梵鐘矣
寔梵鐘可謂精舍不可闕法器也
因平成十三年正當先住七回忌
辰 現住啓知證請鐘銘鳴々吟
社主幹森崎蘭外師亦揮毫春秋
會書家高園柏邨師一念發願鑄
造 以酬廿四世弘忠誓大和尚
之慈恩者矣

九島一人撞中外鳴
年來人去自平生
三年朝暮皆知覺
三寶隨緣是此聲

維時平成十二年庚辰太呂吉辰
九島院第廿五世 啓知新鑄

今春の山門会（彼岸法要）
の平成十三年三月二十三日に
法要で桂雀三郎とまんぶくづ
ラザースのミニライブの後に
梵鐘の入魂式を挙行致します
ので、是非ご参詣下さい。



山門樓閣に梵鐘を招来（寺紋十六弁菊も門扉に）

大阪にオリンピックを！

九条に中華街を！

阪神西大阪線延伸決定！



檀信徒の皆さまへ

○慶讃ビデオ「龍溪」大好評

御遠忌法要で製作しました

慶讃ビデオ「龍溪―九島院に
伝わる龍溪禅師略伝」は、記
念誌「龍溪禅師語録」と以下

そのあとの事を想いつ
除夜の鐘
大晦日に弘忠和尚を偲びつつ撞いた時の偶成 智 證

ふすまに夢快 龍虎の姿

南画家 直原さん 62面を一気に

宇治・万福寺



万松院の本堂にふすま絵を描く直原玉青さん (宇治市五ヶ庄)

日本南画院の直原玉青会
長谷川守口市橋波東之町
川が、宇治市五ヶ庄、黄檗
山万福寺の塔頭、万松院の
本堂でふすま絵の制作に取
り組んでいる。勢いあふれ
る筆致で龍や虎を描いてお
り十五日に取り組み始め
一週間足らずで六間のふす
ま六十二面の絵を一気に仕
上げる予定だ。
直原さんは長野県の善光
寺など全国十カ寺余りでふ
すま絵を手掛けた画家。兩
面は室町時代に黄檗宗の僧
が中国から伝えたといわれ
る。
直原さんが黄檗宗の住職
であることが、万松院の
中島養晃住職が本堂の全面
改装に当たってふすま絵を
依頼した。
仏間には、同院の派祖、
龍溪禅師と今年のえにとち
なで二頭の龍を、控えの
間には竹やぶから姿を現し

て咆哮し合う二頭の虎を墨
で力強く描いた。龍溪禅師
が說法に出向いた大阪・水
定寺で台風と遭い、瀬川の
中で座禅を続ける養明の姿
のほか、寺名にちなみ、松
も題材とした。特筆や唐筍
子も描く予定。
直原さんが同院で絵筆を
取ったのは十五日。「龍や
松の心にならって描くので、
自然に筆が動く」とい
い、構想を描きとめた下絵も手
元に置かずして連日、早朝か
夕方までふすまに向かい
合っている。直原さんはほ
え含二頭の虎には、闘争
は相手の打倒ではなく、互
いの進歩のためにまき、互
との願いを込めた」と話
している。
ふすま絵は十八日か十九
日に完成の予定で、龍溪の
命日に当たる二十三日に當
まれる本堂の落慶法要で公
開される。

京都新聞朝刊
平成12年
5月18日

- の寺院、研究機関に
寄贈しました。
黄檗山萬福寺文化殿
花大禅文化研究所
駒大禅研究所
仏大浄土宗文献室
東京黄檗研究所
大阪市立中央図書館
直原玉青先生
柳田聖山先生
ひろさちあ先生
松原哲明先生
竹貫元勝先生
大槻幹郎先生
妙心寺靈雲院
普門寺(臨濟宗)
林丘寺(単立禅宗)
黄檗宗末寺多数
多くのの方々より、感
銘したとの礼状を頂
きました。南画家の
直原玉青先生は新聞
やテレビで報道され
たように、龍溪禅師
水定図を萬福寺塔頭
萬松院に襖絵にされ

ました。

○桂雀三郎と我れがく来演

今春の彼岸法要では、大ヒ
ット曲「ヨーデル食べ放題」
でブレイクしている桂雀三郎
とまんぶくブラザーズが来演
され、法要の後、ミニライブ
をしていただきます。故桂枝
雀の二番弟子でテレビでお馴
染みの桂南光の弟子子にあた
ります。師匠は住職の龍谷大
学落語研究会の先輩で落語も
本格派、余芸にはじめたギタ
ーのバンドが大当たりで、今
後が楽しみな落語家さんです
ライブの後、山門前で梵鐘
の入魂法要も予定しています
当院に因んだコミックソング
も作曲していただければす



● トランペット葬

生前に故人が好きだった音楽を流し、故人を送る形式の音楽葬があります。エルビス・プレスリーが大好きだった作家の深沢七郎さんの葬儀では、プレスリーのロック音楽をレコードで流し執り行われ、当時としては画期的でマスコミでも広く報道されました。

葬儀式をすべて音楽のみで進行する形式は、無宗教の形式ですが、仏式の告別式でも、弔辞や出棺の折に一部音楽をBGMに流すことは一般化しています。拙寺でも弊師弘忠和尚の津送で出棺の折、孫娘が和尚の好きな「椰子の実」の音楽をエレクトーンで奏でました。

昨年末、檀家の某家で行われた告別式の席上、孫娘が、故人にお別れの言葉を述べたのち、トランペット独奏で、故人の好きだった「君といつまでも」の曲を奏で、参列者に深い感銘を与えました。

故人は臨時社員よりたたき上げ六十年の歳月を会社発展に尽くされ、社長職を引退され悠々自適。昨年亡妻の七回忌を勤められたところでした。弔辞に始めるのに、ゴルフ道具を買ったまにゴルフクラブに入会。運転免許をとるまえに自動車を購入するなれど、強烈な個性の持ち主でした。何事にもとらわれず、自由な考え方をする方で、引退後も世間体を気にすることなく、年相応の服装など気に留めず、自分の好きな派手な服装を通し、近所でも「不良爺さん」と呼ばれていたそうです。

「おじいちゃんは強烈やったわ！めっちゃ凄かった」と涙ながらに述べた孫娘の奏でるトランペットの曲は、参列者の心をうち、小柄も思わず拍手をしてしまい、会場内は拍手喝采で包まれました。故人も喜んで旅立たれたことだと思います。



奉納抄

六地藏前掛け寄贈

(平成十二年十一月)

大竹喜子さまより、境内墓地入り口の六地藏に紅白の前掛けを頂きました。厚くお礼申し上げます。

奉納のぼりは完納。一年間奉揚します

編集後記

▼当院寺暦上初めての梵鐘を、山門楼閣に招来しました。七回忌を迎える先代弘忠和尚の慈恩に酬いるためです。

▼師走十八日設置工事が完了しました。貴乃花の体重の鐘を五人が梯子を使って上げました。端で見ている小柄の肩の凝ったこと。

▼除夜の鐘は、寺族一同で弘忠和尚を偲びながら、心を込めて撞きました。京都より工事関係者も来院されました。

▼お寺のお母さんが一番力を込めて撞いておられました。

▼今春彼岸法要には、梵鐘の入魂法要も予定しております。また「桂雀三郎とまんぶくブラザーズ」も来演されます。お陽気に九島院の梵鐘の入魂を唄いあげてくれます。是非にご参詣下さい。

▼成人式の日には、実父の十七回忌も勤めました。両父の慈恩は山よりも高く、今日あるのも両父のお蔭だと感謝しています。両父の足元にも及びませんが、精進を誓いつつ鐘を打ちました。

西暦二〇〇八年

大阪にオリンピックを招致しよう！

ご案内

山門会・お彼岸法要

3月23日(金)

午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません。ご回向お申し込み下さい。

梵鐘新鑄入魂式とミニライブ
桂雀三郎とまんぶくブラザーズ